

CA ARCserve® Backup for Windows

リリース サマリ
r12



本書及び関連するソフトウェア ヘルプ プログラム(以下「本書」と総称)は、ユーザへの情報提供のみを目的とし、CA はその内容を予告なく変更、撤回することがあります。

CA の事前の書面による承諾を受けずに本書の全部または一部を複製、譲渡、変更、開示、修正、複製することはできません。本書は、CA または CA Inc. が権利を有する秘密情報でかつ財産的価値のある情報で、アメリカ合衆国及び日本国の著作権法並びに国際条約により保護されています。

上記にかかわらず、ライセンスを受けたユーザは、社内で使用する場合に限り本書の合理的な範囲内の部数のコピーを作成でき、またバックアップおよび災害復旧目的に限り合理的な範囲内で関連するソフトウェアのコピーを一部作成できます。ただし CA のすべての著作権表示およびその説明を各コピーに添付することを条件とします。

ユーザの認可を受け、プロダクトのライセンス条項を遵守する、従業員、法律顧問、および代理人のみがかかるコピーを利用することを許可されます。

本書のコピーを印刷し、関連するソフトウェアのコピーを作成する上記の権利は、プロダクトに適用されるライセンスが完全に有効となっている期間内に限定されます。いかなる理由であれ、そのライセンスが終了した場合には、ユーザは CA に本書の全部または一部を複製したコピーを CA に返却したか、または破棄したことを文書で証明する責任を負います。

該当するライセンス契約書に記載されている場合を除き、準拠法により認められる限り、CA は本書を現状有姿のまま提供し、商品性、特定の使用目的に対する適合性、他者の権利に対する不侵害についての黙示の保証を含むいかなる保証もしません。また、本書の使用が直接または間接に起因し、逸失利益、業務の中断、営業権の喪失、情報の損失等いかなる損害が発生しても、CA はユーザまたは第三者に対し責任を負いません。CA がかかる損害について明示に通告されていた場合も同様とします。

本書及び本書に記載されたプロダクトは、該当するエンドユーザ ライセンス契約書に従い使用されるものです。

本書の制作者は CA および CA Inc. です。

「制限された権利」のもとでの提供:アメリカ合衆国政府が使用、複製、開示する場合は、FAR Sections 12.212, 52.227-14 及び 52.227-19(c)(1)及び(2)、及び、DFARS Section 252.227-7014(b)(3)または、これらの後継の条項に規定される該当する制限に従うものとします。

本書に記載された全ての商標、商号、サービスマークおよびロゴは、それぞれの各社に帰属します。

Copyright © 2008 CA. All rights reserved.

CA 製品の参照

このマニュアル セットは、以下の CA 製品を参照します。

- Advantage™ Ingres®
- BrightStor® ARCserve® Backup for Laptops and Desktops
- BrightStor® CA-1® Tape Management
- BrightStor® CA-Dynam®/B Backup for VM
- BrightStor® CA-Dynam®/TLMS Tape Management
- BrightStor® CA-Vtape™ Virtual Tape System
- BrightStor® Enterprise Backup
- BrightStor® High Availability
- BrightStor® Storage Resource Manager
- BrightStor® VM:Tape®
- CA ARCserve® Backup Agent for Novell Open Enterprise Server for Linux
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on NetWare
- CA ARCserve® Backup Agent for Open Files on Windows
- CA ARCserve® Backup Client Agent for FreeBSD
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Mainframe Linux
- CA ARCserve® Backup Client Agent for NetWare
- CA ARCserve® Backup Client Agent for UNIX
- CA ARCserve® Backup Client Agent for Windows
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for AS/400
- CA ARCserve® Backup Enterprise Option for Open VMS
- CA ARCserve® Backup for Windows
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for IBM Informix
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Lotus Domino
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Data Protection Manager
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft Exchange
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SharePoint

- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Microsoft SQL Server
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for Sybase
- CA ARCserve® Backup for Windows Agent for VMware
- CA ARCserve® Backup for Windows Disaster Recovery Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Disk to Disk to Tape Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Module
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for IBM 3494
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for SAP R/3 for Oracle
- CA ARCserve® Backup for Windows Enterprise Option for StorageTek ACSLS
- CA ARCserve® Backup for Windows Image Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Microsoft Volume Shadow Copy Service
- CA ARCserve® Backup for Windows NDMP NAS Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Serverless Backup Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Storage Area Network (SAN) Option
- CA ARCserve® Backup for Windows Tape Library Option
- CA XOSoft™ Assured Recovery™
- CA XOSoft™
- Common Services™
- eTrust® Antivirus
- eTrust® Firewall
- Unicenter® Network and Systems Management
- Unicenter® Software Delivery
- Unicenter® VM:Operator®

テクニカル サポートの連絡先

オンライン テクニカル サポートの詳細については、弊社テクニカル サポートの Web サイト(<http://www.ca.com/jp/support/>)を参照してください。

目次

第 1 章：新機能	9
Central Management Option	9
ファイル システム デバイス(FSD)動的環境設定	9
Storage Area Network (SAN) 環境設定の機能拡張	10
Tape Library Option の強化	10
Microsoft SQL Server 2005 Express Edition	11
セントラル カタログ データベースとカタログ参照	11
セントラル ライセンス登録	11
セントラル ジョブ履歴	11
セントラル レポート	12
サーバ環境設定ウィザード	12
Disk to Disk to Tape Option の機能強化	13
マイグレーション時のセッション統合	13
仮想テープ ライブラリ ステージング	13
保護マイグレーション	13
マイグレーション ステータスを表示する ca_dbmgr	14
Oracle RMAN	14
Agent for VMware	14
SharePoint Server 2007	15
Windows Server 2008	15
SQL Server 2008	15
Oracle Database 11g	15
CA XOsoft	16
ボリューム シャドウ コピー サービス(VSS)を使用したシステム状態バックアップ	16
IBM Informix Dynamic Server Database 11.1	16
第 2 章：既存機能の変更点	17
セキュリティ関連の機能強化	17
連邦情報処理規格 (FIPS)	17
サーバ ベースの暗号化	17
Disaster Recovery Option の機能強化	18
64 ビット オペレーティング システムの惨事復旧	18
Windows 2003/XP でのデバイス ドライバの統合	18
アクティビティ ログ メッセージ	18
ブート キット ウィザードの拡張	18

増分/差分セッションのリストア	18
リモート ファイル システム デバイスを使用するローカル惨事復旧リストア	19
その他の機能強化.....	19
デバイスの再環境設定.....	19
デバイス クリーニング	19
メディア ログイン	19
メークアップ ジョブ	20
テープ コピー.....	20
コマンド ラインからのファイル システム デバイスのオンラインおよびオフライン	20
テープ シーケンス番号	20
エージェントおよびオプションのマージ	20
Tape Library Option.....	21
Enterprise Option	21
Microsoft Exchange Agent	21
Agent for Open Files.....	21
当リリースにおけるマニュアルの変更点.....	21
サポートされない機能.....	23

第 1 章：新機能

CA ARCserve Backup リリース サマリでは、r12 の新機能および既存機能の変更について説明します。この章では製品に追加された新機能について説明します。「既存機能の変更点」の章では、既存の機能に加えられた変更内容について説明します。また、製品から削除された機能の一覧も含まれています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[Central Management Option](#) (9 ページ)

[Disk to Disk to Tape Option の機能強化](#) (13 ページ)

[Oracle RMAN](#) (14 ページ)

[Agent for VMware](#) (14 ページ)

[SharePoint Server 2007](#) (15 ページ)

[Windows Server 2008](#) (15 ページ)

[SQL Server 2008](#) (15 ページ)

[Oracle Database 11g](#) (15 ページ)

[CA XOsoft](#) (16 ページ)

[ボリューム シャドウ コピー サービス\(VSS\)を使用したシステム状態バックアップ](#) (16 ページ)

[IBM Informix Dynamic Server Database 11.1](#) (16 ページ)

Central Management Option

Central Management Option を使用すると、同一の中央管理 システムを介して複数の ARCserve サーバを管理できます。ARCserve ドメイン内では、この中央管理 システムはプライマリ サーバと呼ばれ、その他の(従属)サーバはメンバ サーバと呼ばれます。

このシステムでは単一のインターフェースを使用することになるため、バックアップ環境の編成、モニタ、および設定に関して管理の容易性が向上します。Central Management Option には以下のような機能があります。

ファイル システム デバイス(FSD)動的環境設定

FSD 環境設定を動的に行うことができるようになり、FSD の作成および変更を行うためにメディア サービス(テープ エンジン)を停止する必要がありません。サービスを停止または開始する必要がなくなったので、FSD の管理が容易になりました。また、ドメイン内の任意の ARCserve サーバ(プライマリまたはメンバ)向けに、FSD を作成できるようになりました。

Storage Area Network (SAN)環境設定の機能拡張

以下の機能拡張が Storage Area Network (SAN)環境設定の機能拡張に対して行われました。

- メンバの環境設定 - メンバの役割を指定できるようになりました。
- 共有デバイスの検出 - 複数のメンバから、アクセス可能なすべての共有デバイスを識別できるようになりました。
- 共有グループの管理 - この機能強化により、一貫性のある統一されたグループ表示が可能になりました。

Tape Library Option の強化

以下の Tape Library Option (TLO)の機能強化を CA ARCserve Backup で利用できます。

- 複数のクリーニング スロット: このオプションでは、1 つまたは複数のクリーニング スロットを指定することができます。スロットは連続的な順序になっている必要はありません。これには、複数のスロットを同時にクリーニングできると共に、次のテープ交換までの間隔を長くできるという利点があります。
- ライブラリ プロパティ ウィンドウ: このライブラリ プロパティ ウィンドウでは、以下の TLO オプションへ一元的にアクセスし管理を行うことができます。
 - 自動テープ クリーニング時間の割り当てと削除
 - バー コードに基づいたクリーニング テープの割り当てと削除
 - クリーニング スロットの割り当てと削除
 - バックアップ後の取り出しの有効化と無効化
 - ライブラリからインストールされたバー コード リーダの割り当てと削除
 - 仮想テープ ライブラリ (VTL) オプションの有効化または無効化。CA ARCserve Backup 環境で、特定のライブラリを VTL として指定します。

これらのオプションを使用することで、テープ ライブラリのパフォーマンスが向上します。

Microsoft SQL Server 2005 Express Edition

CA ARCserve Backup では、Raima VLDB データベースから Microsoft SQL Server 2005 Express Edition に移行しています。CA ARCserve Backup データベースを保護する統合されたサポートを拡張して、SQL インストールと SQL Express インストールの両方がサポートされるようになりました。Microsoft SQL Server 2005 Express Edition では、高度な管理ツール、優れた安定性、信頼性、およびパフォーマンスが提供されています。

セントラル カタログ データベースとカタログ参照

CA ARCserve Backup r12 では、セントラル カタログ データベースの実装が拡張され、バックアップ セッションに関する情報が、CA ARCserve Backup データベースにマージすることなく、カタログから直接参照できるようになりました。セントラル カタログ データベースは、プライマリ ARCserve サーバ上に実装され、ドメイン内のすべてのメンバサーバで生成されるカタログが含まれます。デフォルトでは、この機能が有効になっています。

セントラル ライセンス登録

CA ARCserve Backup 環境全体を通じて、ライセンス登録が Central Management インターフェースから管理されるようになりました。CA ARCserve Backup コンポーネント ライセンスの大半は、ドメイン内のプライマリ サーバから適用されます。ご使用の環境内にインストールされたコンポーネントに対するライセンスの配布を表示したり、変更したりすることもできます。

セントラル ジョブ履歴

セントラル ジョブ履歴では、ドメイン内のすべての CA ARCserve Backup サーバのバックアップ ジョブ履歴をプライマリ サーバから参照できます。ホスト名またはジョブ自体のいずれかに基づいて、履歴を表示できます。

セントラル ジョブ履歴では、バックアップされたサーバのステータス、各サーバのインスタンス(またはジョブ)、および各インスタンスのボリューム(またはセッション)を検索してレビューできます。

セントラル レポート

CA ARCserve Backup r12 では、事前に定義されたレポートの数が増加しています。これらの新しいレポートにより、レポートの作成および生成に必要な時間が削減されます。さらに、ご使用の環境にアクセスするために使用できる、すぐに役立つ情報が提供されます。以下のレポートは、懸念される領域を特定するために役立ちます。

- バックアップ試行成功率: サマリ
- バックアップ試行成功率: 個別のクライアント
- リストア試行成功率
- ドライブ スループット
- バックアップ エラー
- バックアップの失敗の回数が多いクライアント
- 最も継続的なバックアップの失敗
- 部分バックアップが最も多いクライアント
- フル バックアップ期間
- 前回のバックアップ ステータス
- ボールト

サーバ環境設定ウィザード

[サーバ環境設定ウィザード]では、CA ARCserve Backup サーバの動作を管理できます。[サーバ環境設定ウィザード]を使用すると、以下のタスクを実行できます。

- CA ARCserve Backup ドメイン内のサーバの役割を管理します。
- CA ARCserve Backup データベースの管理に使用するアプリケーションを選択します。
- CA ARCserve Backup データベースを他のシステムに移動するか、現在の環境の別の SQL Server データベース インスタンスを使用します。
- ARCserve データベースからプライマリ サーバとメンバ サーバへの接続を修復します。
- メンバ サーバを CA ARCserve Backup ドメイン プライマリ サーバに登録します。
- プライマリ サーバの CA ARCserve Backup ドメイン管理者(caroot)パスワードを指定します。
- インストール問題を修正します。

Disk to Disk to Tape Option の機能強化

Disk Staging Option は Disk to Disk to Tape Option に名前が変更されました。このオプションのインストールはプライマリ サーバに対してのみ必要であり、適切にライセンス登録する必要があります。以下の拡張は、Disk to Disk to Tape オプションと Disk to Tape to Tape オプションに適用されます。

マイグレーション時のセッション統合

CA ARCserve Backup のこのリリースには、異なるディスク ステージングやテープ ステージングによるバックアップ ジョブのバックアップ データを、マイグレーション フェーズ中に同じメディアに統合するオプションが用意されています。[その他]タブには、フル バックアップおよび差分/増分バックアップの両方に対して統合を設定するオプションがあります。

マイグレーション中の統合では、ステージング ジョブでのテープ使用を最適化して、カスタム ジョブ、ローテーション ジョブ、または GFS ローテーション ジョブで使用することができます。

仮想テープ ライブラリ ステージング

CA ARCserve Backup の機能により、ファイル システム デバイスをディスク ステージング グループの一部として追加できます。仮想テープ ライブラリ (VTL) ステージングの機能強化により、この機能がすべてのテープ デバイスに拡張されます。CA ARCserve Backup では、バックアップの終了時に、自動マイグレーション ポリシーを定義できるようになりました。VTL ステージングでは、Disk to Disk to Tape Option が有効です。

保護マイグレーション

保護マイグレーションを使用すると、バックアップ済みデータをディスクからテープまたは VTL からテープへスケジュールによってマイグレーションする際に、CA ARCserve Backup で適用する暗号化パラメータを定義できます。

CA ARCserve Backup がバックアップ デバイスでハードウェア暗号化機能を検出すると、自動的に有効になります。ハードウェア暗号化を使用すると、バックアップ サーバの暗号化による負荷を削減できます。ご使用のハードウェアが暗号化をサポートしていない場合は、データはバックアップ メディアにマイグレートされる前にソフトウェアによって暗号化されます。

テープ経由のテープへの操作で使用され、ソースが暗号化されている場合は、マイグレーションの対象である初期バックアップで使用されたのと同じ暗号化パラメータが CA ARCserve Backup により保存されます。暗号化は、マイグレーション中にバックアップサーバで行われます。

マイグレーション ステータスを表示する `ca_dbmgr`

`ca_dbmgr` コマンドを使用すると、バックアップ ジョブに関連するすべてのマイグレーションが完了したかどうかを定期的に確認するスクリプトを作成できます。

Oracle RMAN

CA ARCserve Backup では、Oracle RMAN サポートに関して以下の機能強化が行われました。

- エージェントでは、単一ジョブにおける複数の Oracle RMAN データベース インスタンスのステージング バックアップ ジョブを実行できます。

注：この拡張は、BrightStor ARCserve Backup for UNIX と Linux r11.5 SP3 の Agent for Oracle で行われました。

- エージェントは、メディアの最大化を使用して、GFS ローテーション ジョブでテープの使用法が最大化されるのを支援し、これらのステップにおいてあらゆる容量の消費が最小限に抑えられるのを保証します。
- [デバイスが利用可能になるまでの待機時間]オプションを指定すると、必要な数のデバイスにアクセスできない場合にバックアップ ジョブを待機させる時間を指定できます。
- [バックアップを続行する]オプションを指定すると、ジョブに少なくともデバイスが 1 つ割り当てられている限り、そのジョブを続行させることができます。
- [すぐにバックアップを中止する]オプションを指定すると、コピー数が 1 よりも多く、ジョブがそれらをサポートするのに十分なデバイスにアクセスできないときにバックアップ ジョブが失敗します。

Agent for VMware

CA ARCserve Backup では CA ARCserve Backup Agent for VMware を提供します。VMware には、VMware ESX Server と VMware Consolidated Backup (VCB)とを統合したメカニズムが含まれています。VCB を使用すると、仮想マシン (VM) のファイルとデータを保護できます。さらに、VM バックアップ アクティビティを専用のプロキシシステムにオフロードし、次に CA ARCserve Backup のバックアップ機能とリストア機能を使用して、仮想マシンを保護することもできます。

SharePoint Server 2007

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft SharePoint のサポートが拡張され、Microsoft Office SharePoint Server (MOSS) 2007 および Microsoft Windows SharePoint Services (WSS) のデータをバックアップおよびリストアできるようになりました。SharePoint のコンテンツは、SharePoint 分散データベース、共有サービス プロバイダ、シングル サインオン (SSO)、および検索インデックスで構成されます。エージェントを使用すると、CA ARCserve Backup の機能を使用して、ネットワークにあるすべての SharePoint データのバックアップとリストアを管理できます。

Windows Server 2008

CA ARCserve Backup r12 では、Microsoft Windows Server 2008 をサポートしています。すべての Microsoft Windows Server 2008 サーバ バックアップは、Windows Client Agent を介して実行されます。

SQL Server 2008

CA ARCserve Backup Windows Agent for Microsoft SQL Server サーバは、Microsoft SQL Server 2008 をサポートするように機能が拡張されました。Microsoft SQL server 2008 を ARCserve データベースとして設定できます。Microsoft SQL Server 2008 は、SQL Server の 1 つ以上のインスタンスを管理するポリシーベースのシステムを提供します。

Oracle Database 11g

CA ARCserve Backup は Oracle Database 11g のサポートを提供します。Oracle VSS Writer は VSS (ボリューム シャドウ コピー サービス) と統合され、Oracle データベース ファイルをバックアップし、復旧できるようになりました。CA ARCserve Backup は、Oracle VSS Writer で選択されたデータのフル バックアップをサポートします。ただし、フル バックアップのためにあらかじめ選択している場合でも、Archive Log Dest_1 と Flash Recovery Area オブジェクトは、バックアップされません。

CA XOsoft

CA ARCserve Backup は、高性能な D2D (Disk-to-Disk, ディスクからディスク)、D2T (Disk-to-Tape, ディスクからテープ)、D2D2T (Disk-to-Disk-to-Tape, ディスクからディスクからテープ) のバックアップ、バックアップ暗号化、および統合されたアンチウイルス保護、マルチプレキシング、スナップショット バックアップとリカバリ機能を提供します。

CA XOsoft を追加すると、継続的なデータ保護、レプリケーション、および自動アプリケーション フェールオーバーなどにより、さらに機能が強化されます。2 つの製品を統合することで 24 時間 365 日対応の統合化されたリカバリ管理ソリューションとなり、時間とリソースを節約しながら、常に変化する規格 (コンプライアンス)、ビジネスの継続性、および惨事復旧などに対処できます。

ボリューム シャドウ コピー サービス (VSS) を使用したシステム状態バックアップ

CA ARCserve Backup では、VSS (ボリューム シャドウ コピー サービス) を使用して、以下のオペレーティング システムでのシステム状態のバックアップをサポートするようになりました。

- Windows 2003
- Windows Vista
- Windows Server 2008
- Windows XP (X64 のみ)

IBM Informix Dynamic Server Database 11.1

CA ARCserve Backup は、IBM Informix Dynamic Server データベース 11.1 のバックアップと復旧をサポートします。

第 2 章：既存機能の変更点

この章では、既存の機能に加えられた変更内容について説明します。また、CA ARCserve Backup r12 で製品から削除された機能の一覧も含まれています。

このセクションには、以下のトピックが含まれます。

[セキュリティ関連の機能強化](#) (17 ページ)

[Disaster Recovery Option の機能強化](#) (18 ページ)

[その他の機能強化](#) (19 ページ)

[エージェントおよびオプションのマージ](#) (20 ページ)

[当リリースにおけるマニュアルの変更点](#) (21 ページ)

[サポートされない機能](#) (23 ページ)

セキュリティ関連の機能強化

CA ARCserve Backup r12 には、以下のセキュリティ関連の機能強化が含まれています。

連邦情報処理規格 (FIPS)

CA ARCserve Backup r12 では、業界標準の AES 256 ビット暗号化アルゴリズムを使用するよう暗号化サポートがアップグレードされています。AES 256 ビットの暗号化アルゴリズムによって、暗号化が強化され、パフォーマンス速度が向上します。AES 256 ビットの暗号化アルゴリズムを使用したバックアップは、より高速で安全です。

サーバ ベースの暗号化

CA ARCserve Backup では、現在実装されているデータ暗号化機能 (CA ARCserve Backup エージェントに含まれる) が強化され、CA ARCserve Backup サーバでデータを受け取る際に任意で暗号化できるようになりました。

CA ARCserve Backup がバックアップ デバイスでハードウェア暗号化機能を検出すると、その機能は自動的に有効になります。ハードウェア暗号化を使用すると、バックアップ サーバの暗号化による負荷を削減できます。ご使用のハードウェアが暗号化をサポートしていない場合は、データはバックアップ メディアに転送される前にソフトウェアによって暗号化されます。

注：認定デバイスの最新リストにアクセスするには、CA ARCserve Backup ホーム画面の [テクニカル サポート] リンクをクリックしてください。

Disaster Recovery Option の機能強化

以下の機能が強化されました。

64 ビット オペレーティング システムの惨事復旧

CA ARCserve Backup では、Windows XP (x64)または Windows 2003 (x64/IA64)を実行している 64 ビット Windows マシンでの惨事復旧に対応しています。

注: 64 ビット OBDR (One Button Disaster Recovery)はサポートされていません。

Windows 2003/XP でのデバイス ドライバの統合

CA ARCserve Backup では、Windows 2003/XP の CD に含まれていないネットワークドライバを Client Agent で収集して組み込み、惨事復旧用にバックアップ サーバに保存することができます。この機能は、クリティカルなデバイス ドライバを惨事復旧ブートキットに統合することによって実現されます。

アクティビティ ログ メッセージ

バックアップ ジョブが完了するとログ メッセージが生成され、アクティビティ ログに追加されます。このメッセージは、惨事復旧情報が正常に生成されたことを示します。

ブート キット ウィザードの拡張

ブート キット ウィザードが拡張され、オペレーティング システム、CA ARCserve Backup、マシン固有のデータ(MSD)、およびドライバを統合する ブート可能 CD を作成できるようになりました。最新の CA ARCserve データベース パッチを統合する CD を作成することもできます。さらに、ブート キット ウィザードでは、MSD による惨事復旧に使用されるセッションのメディア情報およびセッション情報が一覧表示されます。

増分/差分セッションのリストア

CA ARCserve Backup では、バックアップ時に、増分および差分のセッション情報が記録されます。惨事復旧リストアのとくに、これらのセッションのすべてをリストアするのの一部をリストアするのを選択できるようになりました。

リモート ファイル システム デバイスを使用するローカル惨事復旧リストア

リモート マシンにファイル システム デバイスが設定されていた CA ARCserve Backup サーバの惨事復旧を実行する場合、ファイル システム デバイスが設定されていたネットワーク ドライブを自動的にマップします。そのため、復旧処理でそのファイル システム デバイスにアクセスしてデータをリストアできます。

その他の機能強化

既存の機能に対して、以下のさまざまな機能強化が行われました。

デバイスの再環境設定

CA ARCserve Backup は、障害のある古いデバイスが含まれていたグループに交換デバイスを割り当てることで、障害のあるデバイスをシームレスに交換する機能をサポートします。この機能は、交換デバイスが古いデバイスと同じベンダによって提供されている場合にのみサポートされます。

デバイス クリーニング

各バックアップ ジョブの終了時に、CA ARCserve Backup では、各ドライブにクリーニングが必要かどうかを問い合わせます。ドライブのクリーニングが必要な場合のみ、クリーニング結果がアクティビティ ログに記録されます。ドライブのクリーニングが必要とされない場合、アクティビティ ログは更新されません。この実装は、Tape Alert が無効な場合であっても機能します。

メディア ロギング

使用しているメディアの有効期限が近づくと、CA ARCserve Backup から警告が発行されます。この機能を使用して、メディアの有効期限が切れる何日前に、CA ARCserve Backup がアクティビティ ログに警告メッセージを生成するかを設定できます。これにより、メディア交換の計画を立てることができます。

メークアップ ジョブ

前のリリースでは、スケジュールした時刻にメークアップ ジョブを作成するか、ホールド状態で作成することが可能でした。CA ARCserve Backup r12 では、以下のように、この機能が強化されています。

- バックアップ ジョブが失敗してから指定の時間後にメークアップ ジョブを実行できます。
- バックアップ ジョブが失敗してから指定の時間(分)後に、メークアップ ジョブを作成できます。

テープ コピー

テープ コピーに `-qJobNo` スイッチが組み込まれました。このスイッチでは、指定したジョブ番号に従属するすべてのセッションを含めるよう CA ARCserve Backup データベースに照会します。テープ コピーには `-qtype` スイッチも含まれます。このスイッチは、コピーするセッションのうち、選択した種類のみを含めるよう CA ARCserve Backup データベースを照会します。

コマンド ラインからのファイル システム デバイスのオンラインおよびオフライン

CA ARCserve Backup では、`ca_devmgr` コマンド ライン ユーティリティを使用して、ファイル システム デバイスをオンラインおよびオフラインにするよう機能拡張されています。この機能強化により、同じフォルダを 1 つのファイル システム デバイスとして使用するよう環境設定した別々の CA ARCserve Backup サーバで、バックアップおよびマイグレーションを処理することができるようになりました。

テープ シーケンス番号

最大テープ シーケンス番号が 25 から 100 へと増加しました。セッション番号を増やすことでテープの領域が拡張され、より多数のセッションをバックアップできるようになりました。

エージェントおよびオプションのマージ

ライセンスおよびパッケージングを簡素化するために、以下のエージェントおよびオプションが結合されました。

Tape Library Option

CA ARCserve Backup Tape RAID Option および CA ARCserve Backup Optical Library Option は、CA ARCserve Backup Tape Library Option とマージされました。

Enterprise Option

CA ARCserve Backup Enterprise Option for StorageTek ACSLS、CA ARCserve Backup Serverless Backup Option、CA ARCserve Backup Image Option および CA ARCserve Backup Enterprise Option for IBM 3494 は、Enterprise Option とマージされました。

Microsoft Exchange Agent

CA ARCserve Backup Agent for Microsoft Exchange には、Premium Add-on (ドキュメント レベル)とエージェント モジュールの両方が含まれています。Premium Add-on は、別売モジュールではなくなりました。既存のエージェントは CA ARCserve Backup r12 にアップグレードでき、以前のすべてのバックアップは、新しいエージェントを通じてリストアできます。

Agent for Open Files

CA ARCserve Backup Client for VSS Software Snap-Shot は、CA ARCserve Backup Agent for Open Files とマージされました。CA ARCserve Backup Client for VSS Software Snap-Shot のインストールおよびライセンス登録は必要ありません。CA ARCserve Backup Agent for Open Files の有効なライセンスがインストールされると、VSS 関連の機能が利用可能になります。

当リリースにおけるマニュアルの変更点

CA ARCserve Backup r12 用のマニュアル セットでは、以下の点に変更されています。

新しいガイド

実装ガイド

「導入ガイド」に代わって「実装ガイド」が提供されます。このガイドでは、インストールの計画方法、CA ARCserve Backup のインストールおよびアップグレード、インストールおよびアップグレードに関する推奨事項、および共通マネージャの一部の使用方法について説明しています。

コマンド ライン リファレンス ガイド

「コマンド ライン リファレンス ガイド」は、「管理ガイド」から抜粋されたものです。このガイドには、コマンド ラインを使用してご使用の環境を保護するための詳細な情報が、各コマンドの例と共に記載されています。

Agent for VMware ユーザ ガイド

「Agent for VMware ユーザ ガイド」では、この新しいエージェントの設定および使用方法について説明しています。

管理者ガイド

英語版のガイド名が「Administrator Guide」から「Administration Guide」に変更されました。

1 つにまとめられたガイド

「Tape RAID ユーザ ガイド」と「Tape Library Option ユーザ ガイド」

「Tape Library Option ユーザ ガイド」には、Tape RAID バックアップのサポートが含まれます。

「SAN Option ユーザ ガイド」と「管理者ガイド」

CA ARCserve Backup ベース製品には、SAN バックアップのサポートが含まれます。SAN Option にライセンスを設定できるのは、ARCserve サーバが共有ライブラリに接続している場合のみです。

廃止になったガイド

Tape RAID ユーザ ガイド

「Tape RAID ユーザ ガイド」の情報は、「Tape Library Option ユーザ ガイド」の中に含まれています。

SAN Option ユーザ ガイド

「SAN Option ユーザ ガイド」の情報は、「管理者ガイド」の中に含まれています。

Enterprise Option for Advantage Ingres ユーザ ガイド

「Enterprise Option for Advantage Ingres ユーザ ガイド」は、このオプションが CA ARCserve Backup r12 ではサポートされなくなったため、廃止されました。

Enterprise Option for Microsoft SQL Using HDS Snap-Shot ユーザ ガイド

「Enterprise Option for Microsoft SQL Using HDS Snap-Shot ユーザ ガイド」は、このオプションが CA ARCserve Backup r12 ではサポートされなくなったため、廃止されました。

Enterprise Option for Microsoft SQL Using HP-XP Snap-Shot ユーザ ガイド

「Enterprise Option for Microsoft SQL Using HP-XP Snap-Shot ユーザ ガイド」は、このオプションが CA ARCserve Backup r12 ではサポートされなくなったため、廃止されました。

サポートされない機能

以下の機能は、CA ARCserve Backup r12 ではサポートされなくなりました。

- Enterprise Option for Microsoft SQL using HDS Snap-shot: CA ARCserve Backup Enterprise Option for VSS Hardware Snapshot にアップグレードすることをお勧めします。
- Enterprise Option for Microsoft SQL using HP-XP Snap-shot: CA ARCserve Backup Enterprise Option for VSS Hardware Snapshot にアップグレードすることをお勧めします。
- BrightStor ARCserve Backup 9.01 および 10.5: 9.01 および 10.5 環境からのアップグレード機能は保持されています。ただし、製品のフル ライセンスが必要です。
- NT Agent に対する VI のサポート
- Agent for Ingres: Agent for Ingres は CA ARCserve Backup r12 に含まれません。ただし、CA ARCserve Backup r12 は、r11.5 Agent for Ingres と互換性があります。
- Cross Platform Manager (CPM): CA ARCserve Backup r12 は、UNIX、Linux、または Netware CA ARCserve Backup サーバを管理できなくなりました。ただし、アップグレード時には、インストールされているマネージャのバージョンを残すオプションが利用できます。
- CA ARCserve Backup では、r12 Agent for Microsoft Exchange を使用した新しいブリック レベルのバックアップ ジョブの作成をサポートしません。r11.5 Agent for Microsoft Exchange を使用したブリック レベルのバックアップ ジョブを変更し実行する機能は引き続き利用できます。
- Raima VLDB: 現在、RAIMA VLDB を使用して ARCserve データベースをホストしている場合、Microsoft SQL Server 2005 Express Edition または Microsoft SQL Server にアップグレードする必要があります。推奨するデータベース アプリケーションは、Microsoft SQL Server 2005 Express Edition です。
- Microsoft SQL 7.0 -- CA ARCserve Backup r12 は、ARCserve データベースとして、Microsoft SQL 7.0 をサポートしません。ただし、Agent for Microsoft SQL Server は、引き続き Microsoft SQL 7.0 をサポートします。
- セントラル データベースの設定

- Cross Platform SAN: CA ARCserve Backup r12 サーバは、CA ARCserve Backup UNIX または CA ARCserve Backup Netware のサーバと同じ SAN 環境にはインストールできません。
- Internetwork Packet Exchange (IPX)
- High Availability の統合
- SQL マルチストライピング バックアップ
- プラットフォームおよびアプリケーションのバージョン
 - AIX 4.3.3、5、5.1
 - Solaris 6
 - NetWare Agent v9
 - HP 11.00
 - Tru 64 4.0E および旧バージョン
 - Oracle 7、8i
 - Sybase 11.9.2
 - Informix 7.3X、9.3.x、9.2.x
 - Lotus Domino 5.x、6.x
 - Exchange 5.5
 - SAP 4.6